

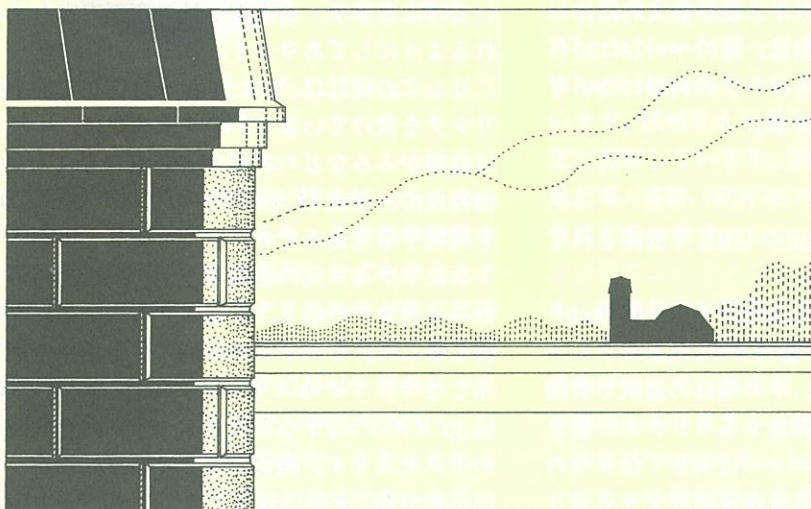
図書館だより

1999. 6. 10

第 21 卷 2 号

通巻 150 号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



サイロの風景…下

カットと文 須田邦昭

北海道民は「サイロの風景」を肯定することができる。そこに、荒野の開拓に挑む「躊躇なく進取する強いもの」の表象を見るだろう。しかし武田泰淳の小説「サイロのほとりにて」は、否定的な受け止め方があることを想わせる。東京から赴任した主人公は北海道には繊細で微妙なもの、色気や濁り、複雑なもの、澁むものが見当たらないことに不安を募らせる。小説は「サイロ（北海道の文化）へ行くか、石灯籠（伝統や都会の文化）へ行くかだね」と住むべきかどうか躊躇するところで終わる。サイロは、暗示性を帯びる。

サイロの風景に、どのような印象を重ねたか。主人公に否定的に語らせる。「明確で、陰がなくて、精神的な所」と。荒々しいだけの自然、素朴ゆえに粗野な人々、大味で間の抜けたような街並み。北海道をこのようにも描く。格式ある家柄の主婦が、生来の北海道人で親の名も不明な下男に殺された事件が取り沙汰される。月寒の荒野で狩りを

する下男は、狐のような陰気な眼の無愛想な男として描かれる。まるで荒野に孤立するサイロのようだ。事件は伝統や都会の文化（主婦）が開拓民（下男）に駆逐されていくさまを連想させる。

作者のサイロの風景は、否定的な表象に変わっていったのではないか。たとえば「躊躇なく進取する強いもの」の反面である「趣と調和を欠いて盲進するもの」へと。簡潔な垂直性に石、レンガ、コンクリートブロックの荒々しい肌を露出して孤立するサイロの風景。そこに一瞬、そのような表象を見て取ることは、我々にも容易であろう。

オギュスタン・ベルクは、「日本の風景・西欧の景観（講談社）」で「我々は自身の属する文化に促されて、風景を肯定的にも否定的にも観賞・評価する」と述べている。「サイロの風景」は、開拓の側に立っていたかどうかで、異なるものであったのかもしれない。

（すだ くにあき 工学部教授 建築計画・意匠）

■ p.2-3. SearchList のリスト (菊地慶仁) ■ p.4-5. 部屋拝見②山岳部

■ p.6. 現代中国の「私営経済」(孔麗) ■ p.7. 図書展示会 ■ p.8. 日本語ルーツ東西探訪(その2)

SearchList のリスト

電子情報工学科 菊地慶仁

1. はじめに

SearchList という WWW (World Wide Web) ページをご存知でしょうか。英語的には多分おかしいタイトルかと思いますが、私が個人的に作っているリンク集です。今回は、このページについての紹介、それからネットワークの利用について少し述べさせていただきます。

2. 概要

SearchList は、現在下記の URL で公開されています。

<http://www.eli.hokkai-s-u.ac.jp/~kikuchi/link/>

図 1 に、画面のコピーを載せます。左上のフレームがメインのメニューで、その項目の選択で右側フレームが切り替わり、関連するリンクの一覧を見ることができます。メニューは大きくは 9 つのカテゴリに、さらに 3 から 5 程度のサブカテゴリ

に分けてあります。またページの閲覧者が最初にページにアクセスした時は、1997 年 2 月のカウンタ設置開始からのアクセス数の累計、ページについての注意事項、過去 1 ヶ月の変更内容などが見られるようにしてあります。

リンクの総計は、平成 11 年 5 月現在で約 700 のリンクを設けています。アクセス数は、4 月からは就職がらみなどの利用が多いせいか 1 日約 100 回程度で、平成 11 年の 6 月中には累積 50,000 回を突破する見込みです。

次にアクセス元の分類ですが、平成 11 年の 1 月から 4 月までの約 3,700 回アクセス分のログを解析しました。そのドメイン別の分類結果を図 2 に示します。アクセス全体の約 60% を占めるのが ac.jp ドメイン、すなわち日本の学術教育機関からのアクセスです。図には示していませんが、その内の約 90%、全体に対しては 50% 程度が北海学園

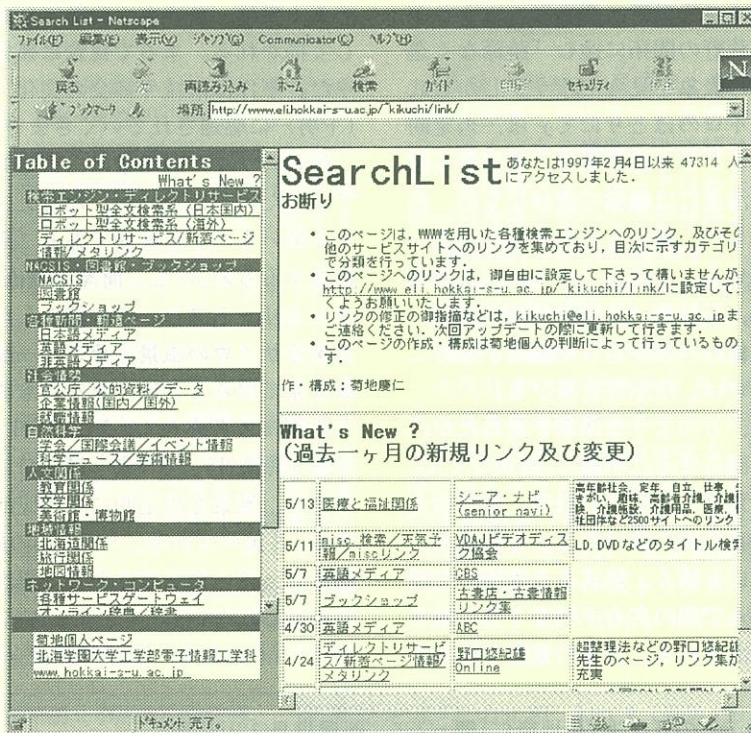


図 1

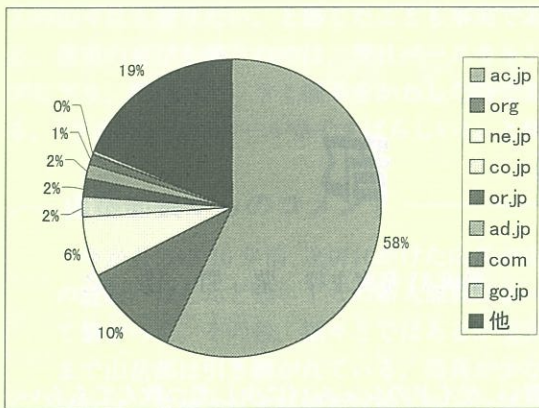


図 2

大学内部からのアクセスです。残りが ne.jp、com などの商用プロバイダーからと、その他の機関からです。他となっている 19% は、ログ中にドメイン名が残っておらず、IP アドレスのみが直に記録されていたものです。SearchList 自体は、個人的に設けられた幾つかのリンク以外は、他のページ上で紹介をしていませんので、学園大学のページを見ようとして辿ってくる場合や、もともと知っている人が学園の外からのアクセスが多いと思います。以上が SearchList の概要、アクセスの内分けなどです。

3. 方針

次にページの性格についてです。もともと、このページは北海学園大学において WWW にアクセスし始めた人に対して、幾つかの代表的なポイントを提供するというのが 1 つの目的でした。特に、学部学生の卒業研究などで「何かを探す時」に使えるようにすることを狙っています。そのために、次のような方針でページを作成しています。

- ・何かを探すときに使う検索ページ等や非常に有用なページを対象とする
- ・いたずらに個別のページへのリンクを増やさずに、他に便利なリンク集があれば、そちらにリンクを張る

とはいうものの、載っているリンクには偏りがあると思います。特に自分の専門がらみで調べた内容に関するリンクは自然に充実していきますが、やはり専門外の領域では抜けもあると思います。

ページの体裁としては、このページで重要とす

るコンテンツはリンク自体なので、それ以外の内容で画面の出力などは妨げないようにしています。基本的には、テキストベースのページで、他のイメージやアニメーション、アプレットなどは入れないようにしています。

ページの作成は、日々少しづつをモットーにしています。すなわち、What's New の項目が停滞せずに常に変化しているようにしています。普通は、幾つかの候補を予めブックマークしておき、What's New が減ってきたらリンクのページと What's New をマニュアルで編集するようにしています。候補さえ用意してあれば、1 回で 10 分程度で更新しています。情報源としては、雑誌の特集記事、書籍、WWW の新着情報ページなどを参考にしています。

4. 終わりに・問題点と課題

こうして、多少なりとも必要な情報を見つける手助けはしていますが、ネットの世界では幾つかの問題もあります。

- ・WWW や他のネットワークサービスで公開されている情報が大量すぎるために、雑音の除去が難しい。
- ・肝心な情報が隠蔽されている（例えば政府の白書がダイジェストでしか公開されていない）こともある。
- ・実社会と同じだから薬もあれば毒もあり、アンダーグラウンド情報の氾濫やネットワークに絡んだ犯罪もある。

しかしながらネットワークの発達、情報を探す手段を与えただけでなく、一般個人や小さなグループに対して、基本的には大手マスコミと肩を並べる世界規模の情報公開手段を与えたこと、が一番大きな効果であると思います。

北海学園大学のネットワーク関連装置の設置は、先駆者の努力と当局からの協力によって、ようやく充実してきた状態で、十分な情報発信が行われているとは言えません。私のリンク集も、ある意味では他人の禪で相撲を取っているようなものです。大学自体による情報の発信が、次の課題になっていくであろうと思っています。

(きくち よしひと 工学部助教授

コンピュータ支援設計・自動生産システム)

山 岳 部

平成 11 年度主将 栗 野 浩 之

「伝統」昭和 28 年の創部以来 45 年にわたって、先輩から後輩へと登山に関する技術は勿論のこと、学園山岳部としての意識が受け継がれている。「山できたえられるのは体力、精神力ばかりでなく、人間そのものが作られることに最大の意義を見出したい」という部報創刊にあたって高岡先生が述べられた言葉が今でも、我々現役の意識である。この意識の継続が、過去の利尻山登攀や、厳冬期の日高山脈縦走、そして今回のヒマラヤ遠征という厳しい活動において、1 人の犠牲者も出していないことにつながっていると私は考える。

「ヒマラヤ遠征成功」発端は 4 年前のドルジェラクパ峰登頂である。この時は OB 中心であったが、次は若手中心の隊でヒマラヤを目指そうという話が盛り上がった。そして、今回の山岳部コーチを隊長に現役部員 3 名、計 4 名のネパール・ピサンピーク登山隊ということになったのである。

全員登頂を目指し、今年の 2 月 12 日に日本を出てから、1 カ月後の 3 月 14 日に全員無事に 6,091 m への登頂を果たした。今、あのピークに立った日のことを思い出そうとしても、まず頭に浮かんでくるのは日本での準備段階で毎日のように部室に集まり、ミーティングを繰り返したことである。コーチ以外の 3 人には初めての海外登山である。あらゆるパターンのアクシデントを想定してゆく。どれだけ準備しても不安は消えない。各自が自分の担当を持ち、その責任を負う。今まで経験したことがないくらいシビアであった。誰もが自分の意見をぶつけ合ったし、いい加減な準備は全く許されなかった。

ネパールに入り、まずはカトマンズにて装備や食料の現地購入品の買だしに追われた。定価表示の無い商品の交渉では片言のネパール語が値引きに有効であった。(カトマンズの古本屋で辞書を

買い、ガイドのシェルパに少しずつ教えてもらい、帰国のころには、殆どのページにチェックの赤線があった。)

キャラバンを開始して約 1 週間でピサンピークの麓の村に着く。キャラバン中は村と村を結ぶ山道を歩く。この山道は主要道路であるが、勿論車などは通れない。そのかわりにロバと人間が生活物資を運ぶための道である。道路工事にも機械は一切使われず、石を砕くのも手作業である。そんな道を最新のビデオカメラを持った、各国からの旅行者が通る。物資的差は彼らにどのような意識を植えて付けているのか気になるところだ。単なる異国情緒のようなもので終わるのだろうか。

麓の村に着いてから数日間は高度順化として、近くの丘を登り、またさらに奥の村へ行き、より高い高度を経験した。そうしなければ、高所経験の無い我々はすぐに高山病にかかってしまうのだ。そしてやっとベースキャンプに入り、3 月 1 日から登山活動が始まる。BC(4,200 m)までポーターによって荷上げされた装備を次からは我々 4 人の力で上げなければならない。まずは C1(4,800 m)まで、次に C2(5,300 m)というように、何段回かにキャンプを分けることで高度に体を慣らしたり、危険な所にロープを設置したりと安全対策を行うのである。C2 より上は完全に雪と氷の世界である。準備万端整ったところで頂上アタックである。3 月 14 日。足にはアイゼンという登山用スパイクを履き、手にはピッケルを持ち一步一步慎重に歩く。まだ薄暗い 6 時に出発し、頂上に着いたのは、午後 2 時半であった。遥か遠くに 8,000 m の秀峰を眺められる。「頂上に着いた時はどんな気持ちであったか」とよく聞かれるが、僕の答えはいつも「ただ早く下りたい」。しかし、頂上を去る時に、振り返って見たあのチベッ

トの山々にも登りたい、と感じたことも事実である。登頂の喜びを感じたのは、翌日ベースキャンプに下り、現地スタッフと握手をかわした時である。「ラムロー（ネパール語ですばらしい）」と何

度も声を発した。

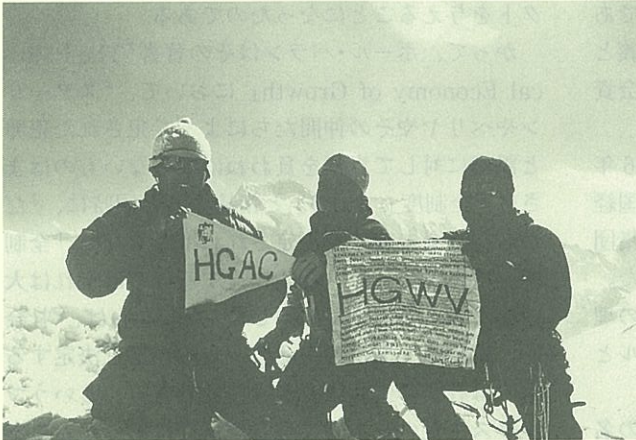
山岳部ではこんなに充実した活動をしているのに、部員が少なく困っています。学年を問わず、山に興味のある人は入部しませんか。

山岳部長からのコメント

今からほぼ10年前、途切れかけた山岳が山の経験がほとんど無い1人の新入部員によって繋がった。その後、細々とではあるが現在まで山岳部は引き継がれている。部員が少なければ、蓄積される経験や技術も徐々に減っていく。しかし、本学山岳部の場合、OBの強力なバックアップのお陰で少しずつではあるが、現役部員は経験を積み、技術を向上させてきた。それが、4年前のドルジェラクパ遠征への現役部員参加、そして、今回の現役部員主体によるピサンピーク遠征へと結びつい

たのである。同好の士が集まり、確たる目的をもって各自が主体的に活動する場がクラブである。その意味で、山岳部はクラブの本質を地で行っている。山や自然を楽しむためにはそれなりの技術や知識を身につけ、知恵を磨かなければならない。そのためには、合宿を含めた日頃の準備が必要である。今回ピサンピーク遠征を成功させた連中は、このような日頃の山岳部の活動を積み重ね、山を存分に楽しんでいる連中である。

(工学部教授 高橋 伸幸)



北 学 園 新 聞 (夕刊) 1999年(平成11年)3月19日(金曜日)

北学園大隊が登頂

ヒマラヤの無酸素で4人

三河市立北学園高校の登山部が、ヒマラヤのピサンピーク(標高6,021m)に登頂し、北極圏最大の山脈ヒマラヤの無酸素帯を突破し、4人が頂上を歩いた。登山部は、今年度、ピサンピーク遠征を計画し、3月19日(金曜日)に、ヒマラヤの無酸素帯を突破し、4人が頂上を歩いた。登山部は、今年度、ピサンピーク遠征を計画し、3月19日(金曜日)に、ヒマラヤの無酸素帯を突破し、4人が頂上を歩いた。

頂上にて
左から
栗野、萩原、安崎

登山部は、今年度、ピサンピーク遠征を計画し、3月19日(金曜日)に、ヒマラヤの無酸素帯を突破し、4人が頂上を歩いた。



キャラバン中、
現地の子供たちと

現代中国の「私営経済」

孔麗

「私営経済」は、中国の歴史過程で消長を繰り返し、今日再び中国経済の一翼を担って登場した。この「私営経済」と社会主義経済体制との矛盾について様々な論議が繰り返されてきた。最近、何振国主編の『社会主義と私営経済』という著書が出版され、そこでは「私営経済」について、「現代私営経済の特徴は、社会資本主義である」と述べ、また私営企業主団体の地位と役割を分析し、私営企業主団体は「社会ブルジョア階級」であると指摘している。ここで言う「社会ブルジョア階級」は、中国史上の官僚資本家と民族資本家とは異なる改革開放政策実施後の特殊な環境の下で生産力の担い手として新しく生まれてきたものである。つまり社会主義をめざす過渡期の社会主義と資本主義という二重性格をもった経済を「社会資本主義」と名づけたものである。

中国では第1次5ヵ年計画が終了した1956年から1978年の改革開放に至る約20年間、中国経済を担う企業経営は、基本的に国家所有制と集団所有制という全人民的所有の下で行われてきた。この単一的な所有制構造は中国の国家指導者の理念を支配し、社会主義発展の唯一の経済モデルとして考えられてきた。

かくて、中国では約20年に亘って社会主義の名の下で生産手段をはじめ、あらゆる生産物は国家所有とされてきた。その国家所有制の下での生産力の行き詰まりの中から新たな生産力の担い手として私営経済が芽生え、中国国民経済の新しい成長点となってきたのである。私営経済の発展によって余剰労働力が吸収され、都市と農村経済が活性化し、財政収入が増加し、国家による社会資本が充実し、生産力発展を促し、結果として国民

の需要を満たしつつある。改革開放後、特に1987年以降、中国共産党は私営経済の役割及びその発展を大いに奨励すべきであるとした。さらに1988年第7期人民代表大会で決定した『中華人民共和国憲法修正案』における第一項において、私営経済の存在と発展に法的保証を与え、また1992年、中国共産党第14期代表大会では鄧小平の「南巡講話」の精神に則って、私営経済は社会主義市場経済の「大家族」中の重要な一員であり、私営経済も社会主義市場経済の発展にとって不可欠の経済要素であるとした。つまり中国における私営経済の出現は、旧来の社会主義モデルに大きなインパクトを与えることになったのである。

かつて、ポール・バランはその著書『The Political Economy of Growth』において、『スターリンやベリヤやその仲間たちによって犯された犯罪と誤謬に対して責任を負わねばならないものはまさに「全制度」である』と指摘すると同時に、『だから、社会主義こそ否定されねばならない「全制度」である』という結論に達するならばそれは大いなる過ちであると強調した。なぜならば、「社会的・政治的・文化的生活の一般的性格を決定するのは社会の生産諸力の成熟度である」というマルクス主義の基本的な理念が前提にあるからである。いうまでもなく現段階の中国における私営経済の出現は、まさに生産力の発展水準が低く、公有制経済のみでは担えない経済活動の部分を私営経済により担わなければならないからである。

はたして歴史はこの実験にどのような審判を下すのであろうか。

(コンリー 大学院経済学研究科博士課程・
経済政策専攻)

図書展示会

(図書展示会 No.29) 期間：平成 11 年 6 月 26 日～
場所：図書館 1 F 自由閲覧室

● 忠臣蔵展 ●

○忠臣蔵関係古文書

- ・赤穂義士實話：重野安繹(口演并訂正者)、西村時彦編、吉川弘文館、明治 44(1911)、北駕文庫 叢 133
- ・日本史蹟 赤穂義士：熊田宗次郎著、昭文堂、明治 44 (1911)、北駕文庫 国 18
- ・赤穂義士對話：渋川資巨識、写本、刊年不明、北駕文庫 叢 556
- ・赤穂義士傳一夕話(いっせきわ) 1-10 卷(全 10 冊)：山崎美成編、橋本玉蘭(書画)、木版、嘉永 7 (1854)、北駕文庫 国 124
- ・赤穂四十七士傳 上・下：青山量太郎著、木版、江都書林(浅草)、嘉永 4 (1851)、北駕文庫 国 126
- ・赤穂義人録補正 乾・坤：鳩巢室直清著、国枝権熙成卿(尾張)補正、椀屋喜兵衛(東京 本石町)、明治 5 (1872)、北駕文庫 国 128
- ・義士勇實傳 1-12 卷(全 5 冊)：写本、明治 44 (1911)、松尾庄造氏(東京市)寄贈、刊年不明、北駕文庫 国 140
- ・繪本 忠臣蔵 1-10 卷(全 10 冊)：木版、大阪前川源七郎、文榮閣、刊年不明、北駕文庫 文 429
- ・扶葉義臣傳 首-9 卷(全 10 冊)：片鳴深淵子編輯、木版、浪花書房、享保 4 (1719)、慶応 4 (1868) 補刻、北駕文庫 国 108
- ・赤穂義臣論苑：写本、岡田嘉祐子識、享和 3 (1803)、北駕文庫 国 269
- ・絶代武名録：写本、會山亭の篆あり、刊年不明、北駕文庫 国 97
- ・赤城雪心傳 1-5 卷(全 2 冊)：刊年不明、北駕文庫 国 543?
- ・赤穂義士事蹟 1-7 卷(全 1 冊)：岡謙藏編、活版、九春堂(東京府)、明治 20 (1897)、北駕文庫 叢 197
- ・元禄快舉録(再版)：福本日南著、活版、啓成社、明治 42 (1909)
- ・赤穂義士家庭：西村豊著、活版、成蹊堂、大正 2 (1913)、北駕文庫 国 338

○忠臣蔵関係図書

- ・忠臣蔵とは何か：丸谷才一著、講談社、1984、914.6 Ma 59
 - ・忠臣蔵とは何だろうか～武士の政治学を読む～：高野澄(きよし)著、日本放送出版協会(NHK ブックス 849)、1998.12.、210.52 Ta 47
 - ・ライバル日本史 4 赤穂浪士は有罪か!? 忠臣蔵裁判：NHK 取材班編、角川書店、平成 7 年 9 月、281 R 49
 - ・忠臣蔵と四谷怪談～日本人のコミュニケーション～：鶴見俊輔・安田武著、朝日新聞社(朝日選書 241)、361.42 Ts 85
 - ・ヴィジュアル百科 江戸事情 第 3 卷 政治社会編 元禄時代と赤穂事件：NHK データ情報部編、雄山閣出版、1992.5.、210.5 V 82
- ### ○忠臣蔵関係歌舞伎絵
- ・国立劇場所蔵 芝居版画等図録 I～VIII 8 冊：国立劇場調査養成部資料課編、国立劇場、昭和 54、721.8 Ko 49
 - ・財団法人阪急学園 池田文庫所蔵 上方芝居絵展図録：国立劇場、昭和 60、721.8 Ko 49
 - ・北斎美術館 第 5 卷 物語絵～忠臣蔵～：永田生慈監修・執筆、集英社、1990.12.、721.8 Ka 88
- ### ○忠臣蔵関係雑誌特集号
- ・国文学～解釈と鑑賞の研究～ 第 31 卷 15 号：昭和 61 年 12 月、特集 忠臣蔵・日本人の証明、学燈社
 - ・国文学～解釈と鑑賞～ 第 32 卷 13 号：昭和 42 年 12 月、特集「仮名手本忠臣蔵」のすべて、至文堂
 - ・歴史公論 第 6 卷 12 号：1980.12.、特集 忠臣蔵の世界、雄山閣
 - ・中央公論～歴史と人物～ 第 4 号：昭和 46 年 12 月、特集 忠臣蔵／松尾芭蕉等の古文書のほか「忠臣蔵」関係図書 50 余冊を展示中です。

日本語と英語の間に共通語はあるか(part 2)

河井達雄

ひとつの言葉はいろいろな要素や要因で、姿・形を変えて旅をしてきたことであろう。日本の本國に入ってきた言葉は、その周辺の国々が、その他の国から借用したものが、さらに流れこんだものとする。従ってアナロジーの考え方が必要とされるのである。

「牡丹」枕の草子に「台の前に植ゑられりける牡丹などの、をかしきこと」とある。現代中国語の発音は**ボタン**である。牡丹は昔のシナの西域の胡国から入ってきた借入語である。シルクロードを東漸した花の名と考えられる。西に旅したのはギリシア語の *botanē* (植物) であったに違いない。牡丹と英語 *botany* は共通の祖語から由来したと考えてよい。

「阿修羅」は**修羅**ともいう。往古、古代王国**アッシリア** (*Assyria*) の大軍はインド制覇を目指して、インダス河畔でインド守護神**インドラ** (日本では帝釈天) の率いる軍と壮絶な攻防戦をくりひろげた。インド征服を阻止された**アッシリア**軍は自国の勢力圏に回帰した。いまのシリア・アラブ共和国は**阿修羅**の後裔と考えてよい。

「すべた」に相当する英語はトランプの *spade* (スペード) である。醜い女性のことをいう。江戸時代に入ってきた西洋歌留多 (*carta*) の中の *espada* からきた。英語 *spade* にも、特定種族を賤称する意味があるので、不快感をかもし出すタブー語になるので注意すべきである。

「苦力」ウルド・ヒンドスタンee・タミル・旧中国にこの語がある。英語では *coolie*, *cooly* となる。苦力は中国などで荷物運搬に従事した労働者をいう。戦前・戦中派の日本人にとってもなじみ深い言葉である。クロネコヤマト運輸を英語に直すと *Black Cat Courier Inc.* になる。courier は通俗ラテン語では荷物をかついで走る人の意である。苦力と *coolie* と *courier* には相互に関連あると考えることができる。

「将棋」の将は *chess* の *che* と発音からして類似性がある。将棋は別名で**天竺将棋**とも称された。将棋(象戯)と *chess* は双方ともルーツはインド

である。ヒンドゥー・ペルシア・アラビア語に *chess* や *check* (日本の**おうて**に相当)の語源が見える。始発点インドから東に西に旅をして戦術・戦略を競うゲームとなった。日本将棋の語は12世紀始めごろの文献に出ている。

「くぼみ」の「くぼ」は *cove* ではないか。「くぼみ」の「み」は所を表わす。*cove* には「洞穴」とか「くぼみのある表面」の意がある。*cove*, *cave*, *concave* (凹形・凹面) は同類語である。日本では10世紀の文学に「くぼまる」が出てくる。*cove* が「くぼ」としてどのようにして和語になったか不明である。

「**紅殻格子**」は *Bengal* 格子のこと。インドの**ベンガル**地方に産する赤い色素・顔料が日本語に採り入れられた。インドの地名や風物が日本に流通したものがかなりある。

「**椛柑**」椛はインドのムンバイの近くの *Poona* (柑橘産地) の日本式発音。

「**棧留縞**」英語では *St. Thomas* 柄模様ということになる。唐**棧織**の「**棧**」も *サン・トーマス* のことである。

「**馬鳴大明神**」の馬鳴は、蚕の原産地 *Pamirs* 高原から由来している。この明神は、旧東海道安部川の近くにある**養蚕**の守護神である。このことから、絹道路シルクロードはかならずしも、絹製品の一方交通でないことが分かる。

「**金米糖**」 *confectionary*

「**じゃが芋**」 *Djakarta potato*

「**切支丹伴天連**」 *Christan Father*

「**羅子**」煙管の竹の部分は *Laos*

古代日本には原始キリスト教の**ネストル**教が入ってきた形跡があるので、注意して捜すとヘブライ語に出あう可能性がある。室町時代の臨濟禅寺にはイスラム教と習合したものを見出す。言葉には *avatar* (化身・権化) を感じるものである。

(かわい たつお 元北海高等学校教諭・

TOEICインストラクター・元HBCラジオ

「ワンポイントイングリッシュ」講師)